蒼井村正
表紙イラスト：或十せねか
試し読み版
二次元ぷち文庫
カースイーター
呪詛喰らい師外伝
前編
魔犬跳梁

※本作はあとみっく文庫『呪詛喰らい師1〜3』（キルタイムコミュニケーション刊）とともにお読みいただきますと、よりお楽しみいただけます。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

カースイーター

呪詛喰らい師外伝 前編

魔犬跳梁

蒼井村正
表紙／或十せねか

二次元ぷち文庫

登場人物紹介

Characters

常磐城咲妃（ときわぎさき）

「呪詛喰らい師（クースイーター）」という異名を持つ少女。幼いころから退魔師としての修業を積んでおり、淫神を自身の身体に封じる使命を帯びている。封じた淫神の力は使うことが可能。

淫神の力を駆使し、浴場内を洗い清め、充満した淫臭を中和して消し去ってゆく。

「淫魔を撃退した可能性と、寮生全員に施した結界膜から推測すると、彼女らに執着し、守ろうとしている様にも感じられるが、今までの淫神とはまったく異なった行動だな」

神伽の巫女として幾多の淫神と相対し、その身に迎え入れてきた咲妃はしばし考え込む。

「……さて、そろそろ目覚める頃かな？　彼女たちには何かエッチな夢を見たという程度の記憶しか残らないだろうが、私は結構楽しめた、かな？　フフフッ♪」

淫神の力を立て続けに駆使した呪詛喰らい師（カースイーター）は、気怠げにつぶやくと、大浴場をあとにした。

「鬼が出るか蛇が出るか……いや、出るのは淫神、か？　これだけ挑発したのだから、出てきていただかねば、くたびれもうけになってしまう」

寮の個室でベッドに寝転がった咲妃は、周囲の神気を探りながらつぶやく。

メリハリに富んだ肢体にまとっているのは、深紅の革帯でできた、エロチックなボンデージコスチュームだけだ。

幅数センチしかない深紅の革帯は、仰向けになっても型崩れしない、見事な爆乳の先端部だけをかろうじて覆い、無毛の恥丘にピッチリと貼り付いて秘裂を隠し、肉感的な尻の谷間に深々と食い込んで、彼女の挑発的なまでのボディに背徳感のスパイスを加えている。

電子試読版

これが、神伽の巫女として淫神に奉仕する際の、咲妃の正装であった。
「……神気は感知できず……まさか、スルーされたか？」
不満げな表情を浮かべた神伽の巫女が身を起こそうとしたその瞬間。
ガシャアァァンッ！
窓ガラスを割って、何か巨大なものが飛び込んできた。
グルルルルルウゥゥゥ……ッ!!
低いうなり声を漏らし、放課後に見かけた時とは打って変わった迫力で咲妃を睨み付けているのは、全身の体毛を逆立たせ、怒り狂った老犬だ。
「まさか、ジョン!? お前が……淫神の依り代だったのか!?」
ウヲヲヲヲヲヲ～ンッ!!
問いに答えるかのように、老犬が咆哮（ほうこう）した。
「う……くうぅぅッ！」
遠吠えを聞いた咲妃の身体が硬直し、ベッドの上に横倒しになる。
（身体が……痺れて……こんなに強力な金縛りは、久し振りだ……）
怒りの神気を込めた咆哮を浴びせられた肉体は、ビリビリと帯電したように痺れていて、指一本動かせない。
「く……ぅ……私は、神伽の巫女。御前（みまえ）に何としてもお目もじ願いたく、斯様（かよう）な策を講じ

ました。ご容赦を……」

痺れて思うように動かぬ舌を必死に動かし、神伽の巫女は怒れる犬神に口上を述べる。

「許サヌ！　我ガ領域ヲ穢(けがし)スモノハ、何モノデアロウト、断ジテ許サヌ！」

怒声を上げた巨犬の身体が、濃密な神気をまとって変化してゆく。

やせ細っていた肉体がボリュームを増して巨大化し、怒りに燃えて咲妃を睨み据える首の左右から、新たな首が伸び出てきた。

（あの姿は……ギリシャ神話に出てくる三つ首の魔犬、ケルベロス⁉　目論見以上に怒らせてしまったか？）

淫神が実体化する際の形状は、人の感情や、周囲に漂う残留思念の影響を強く受ける。

怒れる犬神は、凶暴無比な地獄の番犬の姿を取って、身動きできぬ咲妃の前に顕現(けんげん)していた。

ゴヲオォォォンッ！

三本首の巨犬と化した淫神が声をハモらせて咆哮した。

バキバキバキバキイィィィンッ！

圧倒的な神気の発散で、部屋の空気が雷鳴のような音を立てて共鳴する。

いわゆる、「神鳴り」である。

「お咎(とが)めは……いっ、如何(いか)様にも受けまする。何卒、私に伽の機会を……」

金縛り状態の呪詛喰らい師（カースイーター）は、圧倒的な怒りの神気にも怖じず、伽を申し出る。
「ヨカロウ……咎メト伽、同時ニ受ケテモラオウデハナイカ！」
重々しい口調で告げた魔犬が、ベッドに上がってきた。
巨体を受け止めたベッドがギシリ、と軋み、前足の鋭い爪が、マットレスを容易（たやす）く引き裂く。
「我ガ寵愛セシ娘タチヲ犯シタ罪、ソノ身デアガナウガイイ！」
横倒しになっていた身体が仰向けに組み敷かれ、巨体がのしかかってくる。
「く……うぅぅ……ッ！」
強烈な獣臭と、怒れる巨体から放たれる、火傷しそうな熱気が神伽の巫女を包み込み、硬い毛並みが柔肌をチクチクと刺激して、神伽の巫女を呻かせた。
（この怒りをいかにして鎮め、神体を受け入れるか……）
動けぬまま黙考する咲妃の心中に、不安や恐怖、後悔の感情はない。
「巫女ヨ、コノ身体、賞味サセテモラウゾ！」
真ん中の首が咲妃を見下ろして宣言すると、左右の頭が、革帯ボンデージに縛められた極上肢体に舌を這わせ始めた。
ヌチャ、ビチャッ、ビチャビチャビチャビチャビチャビチャ……。
熱い唾液に濡れた幅広な舌が、絶え間のない音を立てて、色白できめ細かな素肌を舐め

回す。
「ふぁ……あ……ひぁ……あんッ」
悩ましげな喘ぎを漏らす巫女の首筋から肩口、二の腕から脇の下辺りにまでが、たちまちのうちに、熱く獣臭い唾液を塗り込まれてヌラヌラと照り輝いた。
（寮生たちも……これをされたのか……全身を舐め回されて、神気を含んだ唾液をたっぷりと塗り込まれて……）
身体の芯から蕩けてしまいそうな快感に襲われながら、金縛り状態の咲妃は思う。
「柔ク滑ラカナ肌ヨ、巫女ヲ名乗ルダケアッテ、他ノ娘タチトハヒト味違ウナ」
ヌチャ、チュルルッ、ヌチャヌチャヌチャヌチャ……。
「くふうぅうん……ンッ、ひぅっ！　あ……あ……あぁぁあぁ……ッ！」
長くよく動く犬神の舌は、敏感な脇の下や、繊細な鎖骨のラインを何度も舐めなぞって、神伽の巫女を喘がせた。
「味ハ良シ。我ノ好ミジャ。シカシ、コノ身体デ、我ガ寵愛セシ娘タチヲ弄ンダコトハ、如何ナル理由アレド許ス訳ニハイカヌ！」
神伽の巫女として、磨き上げられた柔肌の舐め心地には満足したものの、縄張りを侵された怒りの収まらぬ魔犬の舌は、形よく盛り上がった爆乳の果肉を攻略にかかる。
ぬろっ、ぴちゃ、じゅろろっ、ぬちゃぬちゃぬちゃっ……。

弾力過剰な丸肉に幅広で薄い舌を密着させ、ヌロヌロと円を描くような動きで、先端めがけて這い上ってゆく。
柔らかさと張りを奇跡のバランスで備えた爆乳は、強く押し付けられた舌を押し返し、激しい乳舐めにフルフルとプリンのように震えながら、塗り込まれた唾液で艶めかしく照り輝いた。
「くうぅぅんっ、はぁぁう……んは、あぁぁうんっ」
左右の乳房を同時に舐め嬲(なぶ)られ、細めた目尻に喜悦の涙さえ浮かばせて喘ぐ咲妃であったが、犬神にかけられた強烈な金縛りのせいで身悶えさえも許されず、切なく狂おしい快感だけが極上ボディの奥底に蓄積されてしまう。
刺激に反応して張りを増した爆乳に深紅の革帯ボンデージが食い込み、圧迫された乳首がジンジンと疼いた。
勃起した乳首が薄皮を突き上げ、卑猥なポッチを浮き出させる。
「乳先ガ尖ッテ来タナ？　責メテヤロウ。手加減ハセヌゾ！」
乳首を覆い隠す深紅の革帯に牙が引っかけられ、一気にズリ降ろした。
「あんッ!?」
魔犬の鼻先を弾かんばかりの勢いで、プルンッ！　と勢いよく跳ね出た爆乳の先端で、透明感のあるピンク色の乳首が、勃起を際立たせて艶やかな残像を描く。

「甘ク良イ香リガシテオルナ……」
あらわになった先端に二本の首を寄せ、熱い鼻息でくすぐりながら匂いを嗅いだ魔犬は、乳輪ともども、プックリと盛り上がった先端部を、ヌロッ、と左右同時に舐め上げた。
「はぁぁぁンッ！」
幅広の舌になぎ倒された勃起乳首は、反抗的なまでの爆乳の弾力でピンッ！　と跳ね戻り、塗りつけられた唾液の飛沫を飛ばす。
「良キ声ヨ！　良キ舐メ心地ヨ。ヨガリ狂ワセテヤロウゾ！」
たったひと舐めされただけで、悩ましげな声を上げて仰け反ってしまう咲妃の両乳首に、容赦のない舐め責めが仕掛けられた。
ピチャピチャピチャピチャ、ジュルジュルジュルヌロロロッ！
熱くざらついた舌が乳首をなぎ倒し、乳輪をクルクルとなぞり上げ、勃起を際立たせた敏感突起に絡みついてヌチャヌチャと扱き嬲る。
女体を嬲り慣れた魔犬の舌使いは巧みであった。
右乳首を責める舌は荒々しく暴れくねり、左乳首を舐める舌はヌロヌロと卑猥に蠢いて、緩急入り混じった快感を送り込んでくる。
「ひぁ！　あうぅぅ、くうぅぅンッ！　やっ、あっあっアッあぁぁぁンッ！」
乳首がジリジリと焼け焦げるかと思ってしまう程の熱い神気に包まれ、呼吸もままなら

ない程の快感に襲われた神伽の巫女は、色っぽく裏返った声を寮の個室に響かせて悶え狂ってしまう。

「浅マシキ乱レ様ヨ……ソノ淫ラナル性根デ、我ガ娘タチト戯(たわむ)レタカ!?」

両乳首を吸いしゃぶられてよがり乱れる咲妃の痴態を、ケルベロスの真ん中の首は、冷たく見下ろしながら、叱責(しっせき)の声を掛けてくる。

琥珀色をしたその瞳の奥には、いまだに強い怒りの炎が揺らめき、剥き出された歯茎から伸び出た牙が、剣呑な光を放っていた。

「そっ、それも、御前にお目もじ願わんがための所業にて……ひぁ！　あぁぁぁンッ！」

乳首を舐め転がされ、犬歯で甘噛みされる快感に声を震わせながら、必死に言上していた咲妃の声が、甲高く裏返る。

執拗な乳首責めの快感に屈し、爆乳の奥底で快美な放出欲求が急激に高まったのだ。

爆乳の奥底から甘く切ない圧力が込み上げ、乳首の芯をジンジンと疼かせてせり上がってくる。

（ダメだ……漏れる……母乳が……出てしまうッ！）

獣の舌に絡みつかれて扱きしゃぶられている勃起乳頭が、小刻みな痙攣を起こしながら、ジワリ、と潤む。

「乳先ノ味ガ変ワッテキタナ？　モシヤ、コレハ……」

乳首舐めを仕掛けていたケルベロスの首が大きく口を開け、過剰なサイズの爆乳を、ハグッ！　と咥え込んだ。

左右の乳肉が巨犬の顎に食らいつかれ、軟らかな肉果がムギュルッ、とひしゃげる。

「つあぁぁぁンッ！」

散々舐め回されて張り詰めた乳肉に牙が浅く食い込んできて、痛悦入り混じった甘い悲鳴を室内に響かせた。

「コノママ喰イ千切ルノハ造作モ無イガ、我ニモ情ケハ有ル。コノ肉ノ内ニ溜マシリ物、汝ノ血肉ノ代ワリニ我ニ捧ゲヨ！」

ハグッ、ガフッ、ガフッ、モグッ、モグモグゴグッ、ハグググッ！

乳房に食らいついた魔犬の口が緩急つけて噛み責めて、爆乳の内部に溜め込まれた物の解放を強いる。

きつく圧迫された乳肉がムギュッ、ムギュッと歪に変形し、肉果の奥にまで硬質な牙がめり込んで柔肉を犯す。

右乳房を噛み責める口は乳肉を貪り食わんばかりに荒々しく、左を嬲る口は噛み責めよりも吸い上げを強めて、乳肉全体を思いっきり吸い伸ばしながら乳首に舌を絡ませる。

「くぁ！　あふうぅぅ、ンッ、アッ、はぁぅぅぅンッ！」

右乳房に牙を食い込まされ、左の爆乳を吸い伸ばされた咲妃の声が艶めかしさを増し、

紅潮した美貌が堪えきれぬ快感に歪む。
「乳ヲ噛マレル痛ミサエモ心地良イカ？　淫ラナル巫女ヨ……」
真ん中の首は行為に加わらずに言葉責めを続けつつ、左右の首は反抗的なまでの弾力で牙を押し返す乳肉を噛み責め、勃起乳首に絡ませた舌を旋回させて嬲り転がす。
人の手で揉みしだくより数倍ハードで淫靡な、噛み責めによる搾乳であった。
「ふぁぁぁ、出るッ、出ます……あぁぁぁ、出……るうぅぅんんん～ッ！」
ハードな責めに屈した乳房の芯を歓喜の塊が駆け抜け、一気に弾けた。
ぷしっ！　ぷしゅるっ！　ぷちゅううっ！
乳房に食らいついた魔犬の口内に、熱く甘い乳汁が噴出する。
「んはあぁぁぁぁ～ンンッ！」
魂が乳先から迸(ほとばし)っているかのような射乳快感に襲われた巫女の裸身が、弓なりに仰け反って硬直した。
ピンッ！　と伸びきって痙攣する美脚の先端で、繊細な足指が何かを掴むかのようにキュウッ、と丸められる。
「神伽ノ巫女ハ、乳汁モ出シオルカ……。ヨカロウ、吸イ尽クシテクレルワ！」
母乳の味に昂(たかぶ)った淫神は、さらに激しく爆乳を噛み責め、吸い上げて搾乳した。
ジュパッ、ジュパッ、ジュパッ、ジュルルルッ、ジュロロロロッ……。

はしたない音を立てて乳房全体が吸いしゃぶられ、勃起乳首に巻き付いた舌がストローのように吸引を仕掛けてきて、迸る乳汁を残らず啜り込んでゆく。

飲みきれなかった母乳が、涎と混じり合って獣の口からこぼれ出し、胸の谷間を流れ下って、臍の窪みに白い乳溜まりを形成する。

「んはぁぁんっ！　あ……はぁぅぅぅ……くぅぅぅぅんッ！」

左右の爆乳を貪るように吸われ、執拗に噛み責められた神伽の巫女は、革帯ボンデージに縛められた極上ボディを反らし、熱く悩ましげな喜悦の声を母乳と共に搾り出されてしまう。

ジュルルッ……ジュポンッ！

気が遠くなりそうな長い時間乳肉を噛み責め、乳汁が出なくなるまで吸い続けた魔犬の口から、涎まみれにされた爆乳が、唾液の糸を引きながら解放された。

ガフッ……ヌロッ、ピチャピチャピチャ……。

右乳房を責めていた荒々しい首は、噛み応え満点の乳肌に牙を立てつつ舐め回し、左乳を吸っていた首は、勃起を際立たせた乳首を未練がましく舐めしゃぶっている。

「んはんッ！　ハァハァハァハァ……」

勝ち気な美貌を色っぽく蕩けさせた呪詛喰らい師（カースイーター）は、ビクッ、ビクッ、とボンデージ裸身を跳ねさせ、半ば失神状態で喘ぐ。

これまで幾度も搾乳責めを受けてきた咲妃であったが、犬神による荒々しい乳吸いは、屈指の快感で彼女を翻弄していた。

散々噛み責められた色白な乳肌には、食い込んだ牙の痕が赤い歯形となって刻印され、執拗に舐め転がされた乳首は勃起を際立たせてピンッ！　とそそり勃っている。

「マダ終ワリデハナイゾ。淫ラナルコノ身体、隅々マデ賞味シテクレル！」

二枚の舌が、呪詛喰らい師（カースイーター）の柔肌に再び粘り着いた。

ヌロッ、ビチュッ。ヌチャヌチャヌチャジュパジュパジュルルッ……。

脇腹に浮き出た繊細な肋骨のラインを舐めなぞりながら、ゆっくりと下降した舌は、スリムに引き締まった腹部をヌロヌロと這いずり、エロチックに窪んだ臍穴に溜まっていた母乳を吸い取って、執拗に掘り返す。

「ンッ……あ……あうぅぅん……」

くすぐったげに呻いた咲妃の腹筋が淫靡にうねり、まだ金縛りの解けぬ美脚がベッドシーツを力なく蹴った。

（舌に掘り返される感触が……奥にまで伝わって……あぁぁ……）

舐め抉られた臍穴から伝わった刺激は腹膜を甘く震わせ、内蔵をむず痒く疼かせながら、子宮にまで魔悦の波紋を響かせて、神伽の巫女に悩ましげな表情を浮かばせる。

「コノ肉ノ震エ、我ガマダ生身デアッタ頃ヲ思イ出サセテクレルワ……コウヤッテ、組ミ

敷イタ獲物ヲ賞味シ、貪リ喰ッタモノヨ……」

物騒なことを言いながら、しなやかな腹筋のうねる腹部にたっぷりと唾液を塗り込めた魔犬は、形よく張り出した骨盤のラインに沿ってじっくりと舐め降ろし、肉感的な太腿から、爆乳に勝るとも劣らぬ量感を見せつける尻肉を舐め光らせてゆく。

ヌチャ、ヌチャ、ピチュッ、ピチュッ、ジュルッ、ピチュルッ……。

「ふぁ……んはんっ！　あ……あ……あはぁん……ッ」

全身が総毛立つような快感に喘ぎ、身悶えながらも、呪詛喰らい師（カースイーター）の異名を持つ退魔少女は神伽の意思を失っていない。

（犬神が自分語りを始めた……もっと情報を聞き出せれば、女子たちに対する異様なまでの執着心の理由を探り出せるのだが……）

「恐レテオラヌナ。ダガ、我ヘノ畏レト敬イハ肉ノ内カラ感ジラレル……。貪リ喰ウニハ惜シイ巫女ヨ……」

躍動感に富んだ太腿を唾液で濡れ光らせつつ、わずかに感嘆のこもった声を掛けた淫神の舌は、腿裏からふくらはぎ、膝、脛を這い、足先へと下降してゆく。

「ダガ、ソレ故ニ放置シテオケヌ、力ヲ封ジ、我ガ伴侶トシテクレヨウ」

左右の足先が、巨大な口にパックリと咥え込まれ、足裏から指の股までじっくりと舐めしゃぶられた。

ジュピッ、クチュクチュクチュ、ヌチュルルルッ。
熱い口腔に咥え込まれた足先をヌルヌルした舌が執拗に這い回り、小さく可憐な足指を飴玉のようにしゃぶり回す。
「んひっ！　ヒッ……あ……あぁぁ」
強烈なくすぐったさと同時に襲いかかってくる人外の愉悦に、神伽の巫女は紅潮した美貌を歪め、艶めかしく喘いでしまう。
足指一本一本を味わった魔口は、美脚を再び涎まみれにしながら這い上がり、革帯を食い込ませた秘部を覗き込むような位置で停止した。
そこだけはあえて舐め責めを受けていない魅惑の膨らみは、中心の淫靡なワレメを深紅の薄皮越しに浮き出させ、神の欲情すら煽り立てる媚香を立ちのぼらせている。
「見セヨ！」
「……くふうぅ……解ッ！」
有無を言わせぬ命令に従い、咲妃は秘裂を守っていた革帯を解除した。
緊縛を弱め、シュルリとずれた深紅の革帯の下から、朝露に濡れたアンスリウムの花のような、艶やかな薄紅色のワレメと、桃色菊の蕾の様に可憐な肛門があらわになる。
膣口は既に愛液を滲ませていて、甘酸っぱく蠱惑的な巫女の淫臭が、ムワッ、と熱い湿り気と共に香り立った。

「牝ノ匂イガ濃ク立チ昇ッテオルゾ。巫女ヨ、発情シテオルナ？」
秘めやかな部分に荒い鼻息を吹きかけながら、犬神はじっくりと匂いを嗅いで神伽の巫女の羞恥を煽る。
「はっ、はい。御前の技巧に昂って、この身は熱く疼き火照っております……」
正直に答えた咲妃の目は、性器に負けぬ程艶めかしく潤み、頬は上気して、怒れる神格さえも昂らせる凄艶な色香を放っていた。
「マダ前戯ニ過ギヌノニ、コノ濡レ様……味ワイ甲斐ノアル淫ラナ身体ヨ」
二本の首が、先を争うかのように呪詛喰らい師（カースイーター）の股間に迫ってくる。
（あ……あぁぁ……ついに、そこに……犬神様の舌が、来るッ⁉）
かすかな恐怖さえ伴った快感への期待に震える咲妃の膣口と肛門に、舌がヌルリと這わされた。
「んひぃんっ！　アッ、んくうぅぅンッ！」
たった一度舌を這わされただけで、咲妃は軽い絶頂を迎えて仰け反ってしまう。
覚悟していてもなお、神伽の巫女でさえも悶絶させてしまう程の、圧倒的な快感であった。
「敏感ナ身体ヨ……。コノママ責メ続ケレバ狂ウヤモ知レヌガ、容赦ハセヌゾ！」
ヌチャ、ピチャピチャピチャ、クチュクチュクチュクチュルルッ……。
女悦に震える呪詛喰らい師（カースイーター）の秘部を獣の舌が攻撃的に這い回る。

「あひンッ！　ひっ、いっ、あっあっアッ！」
快感神経を直接舐めしゃぶられているかのような超絶の刺激に、金縛り状態の肢体がビクンビクンと跳ね上がってしまう。
「ソノ声、実ニ良シ！　子壺ノ入リ口モ尻穴モ、悦ビニ震エテオルワ！」
絶え間ない嬌声を漏らして痙攣する巫女の股間に二つの獣顔を埋めたケルベロス型淫神は、言葉責めを仕掛けつつ、二枚の舌を縦横無尽にくねらせ、湧き出す愛液と獣の唾液を混ぜ合わせて、快感に打ち震える性器の周辺に塗り込めてゆく。
ヌチャヌチャヌチャヌチャ、ビチャビチャビチャビチャクチュクチュクチュ……。
性器のワレメを這う舌は、繊細な陰唇の狭間にまで滑り込んで薄肉の花弁を舐めしゃぶり、膣口や尿道口をチロチロとくすぐって、身動きできぬ極上ボディに絶え間ない悶えを強要する。
尻穴を探る舌は、尖らせた舌先で放射状の小皺の一本一本を舐めなぞり、きつくすぼまった中心部を小刻みにつついて、内部への侵入を試みていた。
「穴ノ内側モ、賞味シテヤロウゾ！」
散々舐め嬲られて蕩けた二つの濡れ穴に、犬神の舌がズルリ！　と挿入される。
「ふはあぅぅぅ～ンンッ！」
堪らず仰け反った咲妃のボンデージ裸身と、唾液に濡れ光る爆乳がブルンッ！　と重々

しく揺れ弾み、乳首の先端から少量の母乳が飛散した。
「女悦極マリテ、吸ワズトモ乳ヲ噴キオルカ？　中ノ味モ良シ、良キ供物ヨ……」
魔舌の快感に激しく反応する咲妃の狂態を、ケルベロス型淫神の真ん中の首は、冷淡に見下ろしながらつぶやく。
支配領域を侵された怒りは収まっていない様子ではあるが、神伽の巫女の極上な味はお気に召した様子だ。
「肉穴ノ奥マデ唾液ヲ塗リ込ミ、悦ビノ頂点ヲ極メサセテ我ガ伴侶トシテヤロウ」
ジュルルッ、ズルルッ、ズチョズチョズチョジュプルルッ。
卑猥な注挿音を立てて、膣と肛門に挿入された舌がストロークを開始した。
ざらついた舌が艶やかなピンクの肛門を捲れ返らせてズルズルと抜き挿しされ、膣内を舐め探る舌先は、Gスポットを捉えて押し揉むような動きで責め立ててくる。
「うぁ！　あはぁぁッ、あっあっアッあぁぁぁンッ！」
甘い声を室内に響かせ、肉感的なヒップを跳ね上がらせる咲妃の二穴を、女体の扱いに慣れた魔犬の舌が犯し抜く。
「子壺ヲ結界デ封ジテオルカ……小賢（こざか）シヤ、グルルルルッ！」
膣奥まで挿入した舌先で子宮口をまさぐった犬神は、そこに施された強力な結界に気付き、鋭い牙を剥き出して唸る。

「はぁうぅンッ！　わっ、私の子宮は、強力な術者によって封じられております」
結界で封じられた子宮口をヌロヌロと這いずる舌の快感に震える声で言上する咲妃の脳裏に、彼女の処女を奪い、子宮に結界を張った先代の巫女、常磐城久遠の艶やかで哀しげな美貌が浮かぶ。
（再び久遠と対峙し、彼女が自らにかけた呪詛を祓い、救うまで、私はどんな快楽の責めにも屈するわけには……いかない！）
気が遠くなりそうな快感に翻弄されながらも、咲妃の決意は揺らいでいない。
「……マア良イ。オマエヲ孕マセルノハ、先々ノ楽シミニ取ッテオクトシヨウ……コチラノ穴ハドウカナ？」
尻穴を犯す舌が直腸壁を舐め回しながらズルズルと侵入してきて、S字結腸をくぐり抜け、さらに奥深くに秘められている性感スポットを探ってゆく。
「巫女ヨ、コチラノ穴奥ニハ、浄化ノ神体ヲ宿シテオルカ？」
消化管に舌を遡らせて探り抜きながら、犬神が再び感嘆の声を漏らす。
「ふぁぁう、さっ、左様にございます。私の尻穴は、神体を迎え入れるため、清浄を保たれております。う……あぁあぁ、そんなに深くまで……んはぁぁぁ～ン！」
大腸にまで挿入された舌に、腸壁の柔突起をしゃぶり回された咲妃は、言上の最中にも関わらず、強烈なアナルアクメに襲われて痙攣してしまう。

絶頂収縮した肛門が、腸壁を舐め犯す獣の舌をキュンキュンと締めつけ、腸壁が妖しく蠕動(ぜんどう)して、排泄快感が変じた魔悦の波紋を発生させる。

「尻穴デ果テタカ？　腸全体ガ悦ビニワナナキ、渦巻キ、ウネッテオルワ」

琥珀色の目を満足げに細めたケルベロスは、絶頂にうねり狂う腸壁と、肛門のきつい締めつけを堪能している。

「今度ハコチラノ穴デ果テヨ！　子宮ヲ結界デ封ジテモ、我ノ舌技ニハ抗エヌ！」

神伽の巫女を快楽調教し、伴侶とする欲望に燃えるケルベロスは、膣内に挿入した舌を激しく渦巻かせて急所を責め立てた。

ズリュッ、ブチュルッ、ジュプジュプジュプ、グリグリグリリリッ！

膣天井に敏感な肉襞を撚り合わせたGスポットに強く舌を押し付け、奥から手前に掻き出すようにうねらせて、神伽の巫女に絶頂を強いる。

「はぁ～んっ！　イクッ！　また、また、果てますっ！　んきゅふうぅぅンッ！」

容赦のない責めに屈した呪詛喰らい師(カースイーター)は、立て続けの絶頂に追い上げられて仰け反ってしまう。

ぷしいいっ！　ぷしゃあぁっ！　ぷしゅゅ、ぷしいっ、ぷちゅるるっ！

絶頂を告げる声を室内に響かせた咲妃の股間から、熱く香しい喜悦水が噴出し、犬神の顔をびしょ濡れにした。

「尿モ美味デ香シイ……コノ身体、神ヘノ供物トシテ、隅々マデ練リ上ゲラレテオルナ……」

膣口を犯す舌がくねる度に、断続的に噴き出てくる潮を遠慮なく舐め取りながら、三つ首の魔犬は感嘆の声を漏らす。

「下拵エハコノ程度デ良カロウ……我モ久々ニ昂ッテキタワ！」

大量潮噴きを浴びて濡れた鼻先を舐めた犬神が、連続絶頂の余韻でグッタリと脱力した咲妃にのしかかってきた。

「う……あぁ……」

弱々しく呻く咲妃の視線の先で、ケルベロスの赤黒い怒張が揺れている。

先端部の形状は人の亀頭と変わらないが、そのサイズは凶悪で、張り出した亀頭冠の周辺には硬いイボ状の突起が密生している。

肉胴部分の長さも三十センチは超えており、太い血管がコブのように浮き出て、雄々しく張り詰め反り返っている。

巨根の真ん中辺りから根元近くまでは、硬く太いブラシのような獣毛に覆われ、勃起の根元で揺れる陰嚢も精力を漲らせて巨大だ。

人のペニスと形状こそ似通ってはいるが、より太く、長く、凶暴な獣性を感じさせる、神の性器とは思えぬ剛直だ。

魔犬の股間には、それが、三本も生えているのだ。
「我ガ逸物ヲ使ウノハ久方振リヨ……」
身動きできぬ咲妃の秘裂と肛門に、熱く猛った亀頭が、グリッ！　と押し付けられた。
「おっ、お待ちを！　何卒、子壺への挿入はご容赦を！」
膣挿入に慣れていない巫女は、必死の形相で懇願する。
「ナラヌ！」
ズムッ！　ズブブブッ！
巨大な亀頭が膣口と肛門を割り開き、容赦なく突き挿れられた。
「くぁ！　あはあぁぁぁぁ～ンッ！」
悲痛さと歓喜の入り混じった絶叫が、愛液の芳香と唾液の獣臭が入り混じった室内の空気を震わせる。
革帯ボンデージ姿の極上裸身が、挿入の衝撃でグンッ！　と仰け反り、八の字型に伸びた美脚が宙を蹴って、精一杯の抵抗を見せる。
「言葉トハ裏腹ナ、淫ラデ良キ締メ付ケヨ。滾ル！　滾ルゾ！」
獣の怒張をキュンキュンと締めつけてくる膣壁と肛門の感触に心地よさげな声を上げ、興奮で鼻息を荒げた犬神は、野生のパワー全開で激しく腰を使う。
ジュプッ、ズチュズチュズチュズチュグチュズリュズリュズリュッ！

雄々しく反り返った巨根が肉突起を駆使して膣口と肛門を抉り、恥骨を圧迫するようにあてがわれた三本目のペニスが素股責めを仕掛けて、肉胴に生えた剛毛でクリトリスをゾリゾリとなぎ倒して刺激する。

「んはんっ！　あぐうぅぅんっ！　犬神様ぁ！　はっ、激しすぎまする……んあぁぁあンッ！」

獣の唾液に濡れ光る極上裸身が、パワー全開の荒々しく激しいピストン快感に悶え、くねる。

巨根を挿入され、膣壁側から押し上げられて突出を際立たせたクリトリスを、ブラシ状の肉棒に圧迫されながら擦り嬲られる感触は、想像を絶する快感電流で、ボンデージボディを痙攣させる。

「言ッタデアロウ？　コレハ罰ヨ。耐エ切レヌ女悦ニヨガリ乱レルガイイ！」

組み敷いた女体に毛深い巨体を密着させた三つ首の犬神は、全身を躍動させて呪詛喰らい師（カースイーター）を犯し責めた。

ズプズプズプルッ！　ゾリゾリゾリゾリリッ！

散々舐められて感度を増した柔肌を硬い獣毛が突きくすぐって、メリハリに富んだ美裸身に過剰な肉悦で鳥肌を立たせてゆく。

「あはぁぁぁんっ！　あっあっアッ、ふわぁぁぁぁンッ！」

乳首を痛々しい程に勃起させた爆乳が、子宮を突き上げられる衝撃にブルンブルンと円を描いて揺れ弾みながら母乳を噴き散らし、仰け反り喘ぐ口から突き出された舌が、喜悦の涎を振り撒きながら宙を舐めた。

「良イ乱レ様ヨ、モット狂ワセテクレルゾ！」

揺れ弾む爆乳が、左右同時に咥え込まれ、容赦のない噛み責めと搾乳を受ける。

ボリューム満点の乳肉が魔犬の顎からムニュリ、とはみ出し、勃起を極めた乳首に舌が絡んで締めつけながら旋回した。

「ひぐうぅぅぅンッ！　出るッ、出ますっ、はあぁぁぁ～ンッ！」

ぷしいいっ！　ぴしゅるるるっ！

悩ましげに裏返った声を上げた呪詛喰らい師（カースイーター）は、魔犬の口腔内に熱い乳汁を噴出させながら、射乳エクスタシーに舞い上がる。

ジュルルルッ……ジュロロロッ、ズチュルルルウゥゥ～ッ！

爆乳に食らい付いた二つの首は、はしたない吸い音を立てて母乳を吸い込み、歓喜に震える乳肉を噛み責めて、さらなる乳汁の放出を強いた。

「美味ナル乳汁ヨ……今度ハ、口モ賞味シテヤロウ」

咲妃の狂態を鑑賞していた真ん中の顔が、満を持して口付けを仕掛けてきた。

長く伸びた鼻面が、注挿快感に喘ぐ唇にきつく押し付けられる。

ジュロロッ、グチュグチュグチュ、ジュパジュパジュルルッ！
幅広で平たい舌が喘ぐ口の中にズルリと挿入され、好き放題に掻き回しながら唾液を吸い上げてゆく。
獣の姿をした荒ぶる神と、神伽の巫女とのディープキスだ。
「はぐ……んぐ……んむふうぅ……ちゅばちゅばちゅば……」
苦しげに顔を歪めながらも、咲妃は犬神の舌を受け入れ、積極的に吸いしゃぶって奉仕する。
フェラチオでもするかのような情熱的で入念なキス奉仕を受けながら、ケルベロス型の淫神は乳肉を噛み責めて搾乳を続け、三本のペニスをフルに駆使して二穴とクリトリスを責め立てた。
グチュグチュグチュグチュ、ニュプニュプニュプジュプルッ……。
膣口と肛門が掘り返され、口と乳房を犯される淫音が延々と続く。
硬質な突起に囲まれた亀頭冠が膣粘膜と直腸壁を掻き嬲り、獣毛に覆われた肉胴が勃起クリトリスをなぎ倒し、圧迫しながら責め転がす。
「んきゅふうぅぅ、んっ、んっ、んむうぅぅ～ンッ！」
犬神の舌で喉奥まで探られながら、咲妃はひときわ深く強い絶頂へと追い上げられた。
ぷしいいっ！　ぷちゅるるっ！　ぷしゃあぁっ！

左右の乳首が同時に母乳を噴き出し、秘裂の奥からは大量の潮吹きが起きて、素股責めする獣根を熱く濡らす。

「我モ放ツゾ！　受ケヨ！」

膣と肛門の内側、そして、勃起クリトリスに押し当てられた怒張がドクドクと危険な脈動を開始した。

（来るッ⁉　中に……膣内に、神の精液を出されてしまう……！）

意識が吹き飛びそうな絶頂感に翻弄されながら、妖しい期待感を抱いてしまう呪詛喰らい師（カースイーター）の中で、獣神の射精が始まる。

ドクドクドクドクンッ！　ドビュルルルッ！　ズビュルルルルルッ！　ビュロロロロッ、ドプドプズビュロロロロォォォォ～ッ！

腸奥と膣内に灼熱の獣液がぶち当たって渦巻き、クリトリスを連打しながらしゃくり上げた巨根から噴き出た牡臭い粘液が、爆乳と美貌までドロドロに汚した。

「ふあああぁぁンッ！　イクッ、イクッ、イクうぅぅぅ～ンンッ！」

絶叫する咲妃の顔に犬神の精液が降り注ぎ、口内にまで牡臭い粘液の塊がドロドロと流れ込んでくる。

無意識のうちに、ゴクリと喉を鳴らして獣の精液を飲み込んだ少女のボンデージボディが、背徳的な体液の味に痙攣した。

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/

『呪詛喰らい師』関連作品のご紹介

あとみっく文庫

呪詛喰らい師 カースイーター シリーズ

蒼井村正

挿絵／或十せねか

全国の書店・電子書籍サイトにて発売中!

『正義のヒロイン姦獄ファイル』
『敗北乙女エクスタシー』にて
コミカライズ連載中!
※不定期連載です。

原作：Rusty Soul
作画：或十せねか
原案：蒼井村正

二次元ぷち文庫

電子書籍でしか読めない
ドキドキ★ラノベ!

呪詛喰らい師外伝 シリーズ

夏祭り封神譚
餓神乳辱 前編・後編
淫女神の森 前編・後編
魔犬跳梁 前編・後編

蒼井村正

表紙イラスト：或十せねか

好評配信中!